

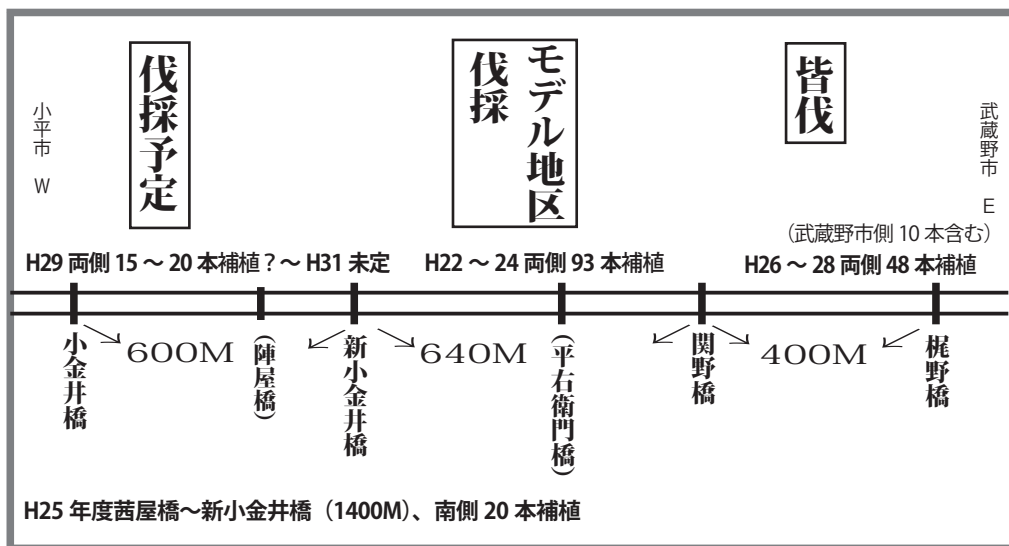
玉川上水でなにが起こっているのか？

平成 24 年制定の小金井市「玉川上水・小金井桜整備活用実施計画」に基づき、名勝小金井（サクラ）復活事業が行われています。平成 22 年～ 24 年は新小金井橋～関野橋 640 m をモデル区間とし、ヤマザクラの柵内の補植と、桜の生育を阻害する樹木の伐採を行いました。平成 26 年～ 28 年は関野橋～梶野橋区間 400 m で、ケヤキなどが雑木として皆伐されました。

この皆伐には市民の懸念や疑問が寄せられ、平成 28 年 9 月 21 日、市議会で「玉川上水では小金井桜だけでなく、他の樹木や生き物も大切にさせていただく事を求める陳情」が趣旨採択されました。

＜遊歩道の地表温度測定調査＞

こだまでは 7 月 20 日～ 9 月 10 日の内、16 回の玉川上水・遊歩道の地表温度測定調査を実施しました。測定箇所は平右衛門橋を起点に、東は梶野橋まで。兩岸、100 m 間隔で 12 ポイント。西は小金井橋まで。兩岸、100 m 間隔で 18 ポイントです。測定結果は次回の「こだま通信」に掲載の予定です。「高木がある地域は涼しく、空気もきれい」測定者たちの共通の感想です。



名勝小金井桜復活事業による既存樹木伐採の現況

植物観察

玉川上水の緑は、小金井に残る数少ない自然林です。東京に残された全長 43km（暗渠 13km を除くと 30km）に及ぶグリーンベルトの一部でもあります。その自然林を伐採し桜並木にすることが及ぼす影響を知るために、植物に詳しい方々とともに観察をはじめました。

伐採した地域を見て感じることは、木々の作る緑の空間が著しく減ったこと、高木を伐採したために下草が背高く繁り、草藪となっていることです。下草の中には在来の野草も見られます。しかし、近頃問題になっている外来の植物も目立ちます。これら外来の植物は、伐採されていない地域ではあまり見られません。

また、玉川上水では近年都市部では見ることが減った希少な虫や動植物が見られます。なかには特定の種の木々を必要とするものもあります。自然林の伐採は、それらの生きものの住みかを奪います。

小金井桜の継承は重要です。しかしその文化的価値を考えると同時に、玉川上水の自然的価値も考えてみてはいかがでしょうか。 < O.Y. >



北アメリカ原産のヨウシュヤマゴボウの群落 (7.11)。外来植物。太い根や果実を食べると食中毒を起こす有毒植物。



クズの群落 (8.4)。つる植物で生長が早く、桜の幼木にまでかぶさっている。下の桜は光合成が出来なくなり枯れてしまう。